

九国プレ2016

国語

九州国際大学附属中学校

【注意事項】

- 1 開始合図のチャイムが鳴るまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
- 2 開始合図のチャイムが鳴ったら、最初に解答用紙と問題用紙に受験番号・氏名を書きなさい。
- 3 試験時間は50分です。
- 4 解答はすべて、問題の指示にしたがって解答用紙に記入しなさい。
- 5 問題用紙で、印刷がはっきりしないところがあったら、静かに手をあげなさい。
- 6 答案ができあがっても、終了合図のチャイムが鳴るまで静かに着席していなさい。

字数制限のある問題については、句読点なども一字とします。

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、また習っていない漢字については、ひらがなで表記したり、読みがなをふったりしています。

① 吉田松陰はすばらしい教育者であった。

久坂玄瑞、高杉晋作、伊藤博文などの人物を育てたことはよく知られているが、松下村塾そのものはごく短い期間で終わってしまった。何が教育の秘訣であったのか。どうも特別な教え方をしたのではなかったようである。

価値を認めてほめること

松陰は門下の者の①チヨウウシヨを実にうまく引き出して、それを拡大して**称揚**し、本人を有頂**※**にさせることができた。I、「久坂玄瑞は防長年少第一流の人物にして、もとより天下の英才なり」といった**推薦文**を書いている。

無名の年少者が歴史的な人物のように評価されれば、玄瑞としても**②フンキ**しいではいられまい。II、松陰先生は長州藩はじまって以来の大秀才ときてい

るのだからたまらない。門下の者はみなすぐれていたにちがいないが、松陰の**推賞**は、それぞれの才能をさらに大きくのばしたのである。ほめられたから、えらくなった。

松陰が偉大な教育者だった証拠である。

すばらしいと人に向かってほめること

すぐれているから、ほめる。これが順序だが、ときとして、ほめられたから、**優秀**になる、ということもある。

ここに、四十名のクラスがあるとすると、二十名ずつの二つのグループに分けてA、Bにする。学力は平均してA、B同じようにしておく。

テストをする。Aのグループには採点し、答案をかえす。Bのグループは答案を見ないで、教師がひとりひとりと呼んで、「この間のテストはよくできていた」というようなことを告げる。

しばらくして、またテストをし、同じことをする。そんなはずはないのに、と思う者もあるかもしれないが、ほめられて文句をいうことはない。

こういうテストを数回くりかえしたあとで、こんどはBのグループの答案も採点する。するとどうだ。Bの平均点は、Aグループよりよくなっている。

特別なことをしたわけではない。いわばデタラメにほめただけで、ほめられた者はよくできるようになっている。できるからほめられるのではなく、ほめられたからできるようになったことを示す実験である。

こういうのを心理学で**③ピグマリオン効果**といっている。ピグマリオンはギリシアの伝説でキプロスの王である。彫刻の名手であった。あるとき女性像を刻んだところ、すばらしい美女ができた。ピグマリオンはその自作の像に恋をし、なんとしても結婚したいと神に**願**をかけた。それがかなって、彫刻の像は生命を**④エ**て、ピグマリ

神や仏に願うこと

オンの妻になったといわれる。それをふまえて、願いや、ほめたことはが実現するのをピグマリオン効果というようになった。

勉強をしても、なかなか、思うように④セイセキを上げられない。Ⅲ、先生からほめられることも少ない。それどころか悪い点をつけられて、叱られたような気持ちになる。それで、いよいよのびなくなってしまう。

まちがいでいい、ほめられると、思いがけない力を⑥ハツキするのが人間である。できるようになるには、だれか、上手にほめてくれる人がまわりにいる必要がある。学校にも家庭にもそういう人のいないことが多い。

山本五十六元帥が名言を残した。

シテミセテ、

イツテキカセテ、

サセテミテ、

ホメテヤラネバ、

ヒトハウゴカジ。

私は蛇※をつけた。

ホメテヤラネバ、

ヒトハウゴカジ。

③ホメレバ、

ブタモキニノボル。

(『子どもを育てる絶対勉強力』 外山滋比古)

問一 ——— ①～⑥のカタカナを、漢字に直しなさい。

問二 有頂※の空らん部には「テン」と読む漢字が入り、全体で「得意の絶頂でいい気になるさま」という意味の三字熟語になります。その「テン」として最も適切な漢字を次から選び、記号で答えなさい。

ア 点 イ 天 ウ 展 エ 転

問三 I III にあてはまる最も適切な言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア しかも イ しかし ウ したがって エ たとえば

問四 「蛇※」とは、ある身体をあらわす漢字を入れて「付け加える必要のない余計なもの」という意味になります。その漢字として最も適切な漢字を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 頭 イ 口 ウ 足 エ 尾

問五 —— ①「吉田松陰はすばらしい教育者であった」とありますが、筆者は、どのような点で「すばらしい教育者」と言っているのですか。それを説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を、指定された字数で文章中から書きぬきなさい。

松陰先生という長州藩きつての 1 (三字) が、無名の門下生を 2 (六字) のように評価することによって、その結果、それぞれの 3 (二字) をさらに大きくのばし、優秀な人物に育てあげたという点。

問六 —— ②「ピグマリオン効果」によってほめられた人間は、どのような気持ちになるのでしょうか。「気持ち。」という形で、自分で考えて答えなさい。

問七 —— ③「ホメレバ、ブタモキニノボル」とありますが、筆者は、なぜこの言葉をつけ加えたと考えられますか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 能力の低い平凡な人間でさえ、ほめられることによって思いがけない力を出すものであることを示し、ほめることの重要性を確認したかったから。

イ 「さるも木から落ちる」ということわざと対比させ、思わぬ失敗をおかさなないように、ふだんからほめておくことの重要性を示したかったから。

ウ 能力の高い人間こそ、ほめてのばすべきであるという自分の主張が、だれもが知っていることわざにも言われていることを示したかったから。

問八 文章の話の進め方についての説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア たとえなどの表現法を多用し、イメージ豊かな作品として、完成させようとしている。

イ 具体例や実験結果、名言等を引用し、説得力を高めつつ、結論へと導いている。

ウ 抽象的な表現を用い、だれにでも理解しやすいように話を進めている。

エ 起承転結の構成で、論理的な展開を意識しながら、話を進めている。

〔二〕次にあげる文章は『花まんま』という作品の一部分です。登場人物の説明と文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、まだ習っていない漢字については、よみがなをふったり、人物には解説をつけたりしています。

加藤家

俺おれ（加藤俊樹かとうとしき）：大阪に住む小学五年生。母と妹「フミ子」との三人暮らし。父親は妹が生まれてすぐ、交通事故で命を落とす。妹が生まれたときの父の言葉「兄ちゃん、どんな時でも妹を守ってやらなあかん。」が今でも心に強く残っている。妹の行動を心配しながら、いつも妹や家族を大切に思っ

生まれ変わることで。

て行動しようとしている。妹（加藤フミ子）：自分は若くして亡くなった「繁田喜代美しげたまきよみ」の転生しげたまきよみであると言っている小学二年生。その「喜代美」の思い出をなぞるかのように行動しようとするあまり、周りの人々を驚おどろかせてしまうことがあった。この日も、命の危機にある繁田老人を救うため、琵琶湖びわこのほとりにある「喜代美」の実家に行きたい、と兄（俺）にせがみ、二人で一緒にその町を訪れていた。

繁田家

喜代美：今から八年前、二十一歳さの時、大阪のデパートに勤めていたが、ある事件に巻きこまれ、命を落とした。幼いころ、ままごと遊びが好きで、公園の草花で作ったお弁当「花まんま」をよく作っては、家族にふるまっていた。

老人：喜代美の父親。喜代美が命を落とした時、会社の食堂で昼食を食べていたことを悔くやみ、それ以来、ほとんど食事を口にしなくなった。その結果、ガイコツのようにがりにやせ細こってしまっている。

おっちゃん・おばちゃん：喜代美の兄・姉。喜代美の故郷の町で父親と三人で暮らしている。「おばちゃん」は婦人警官をしている。妹「喜代美」の不幸な事件で食事もとらず、命を落としてしまいそうな父親を心配しながら、毎日を過くしている。

「ほんま、ひどい目にあつたで」

俺おれは公園までかけもどり、フミ子に①事ことのてんまつてんまつを説明した。

「そっ……おいしそうに食べるまねしとった……そっ」

きつとフミ子も、それが見たかったんだらうと俺は思った。

「あのおっちゃん（老人）が、ちゃんとご飯を食べるようになるかはわからん。でも、お前が……いや、お前の中の喜代美さんが心配しとることは、きちんと伝わった

と思うで」

俺はいささか①複雑な心境で言った。フミ子は

I

うなずいた。

それから俺たちは琵琶湖のほとりまで歩いて行き、ひとしきり遊んだ。せつかくここまで来たのだから、まっすぐ帰るのはもったいなかったからだ。その後、帰りの時間も考えて、少し早めにバスで駅までもどった。

「さあ、大阪にもどるで」

切符を買い、二人で改札に向かっていた時だ。

強くてなかなかへこたれないさま。

俺は改札のすぐ横に、あのガイコツのような老人と屈強なおっちゃん、あずき色の上着のおばちゃんが立っているのを見つけた。

なるほど、おばちゃんは婦人警官だ。俺たちはよそから来た人間だろうと、すぐに②見破ったのかもしれない。だから駅の改札で張っていれば、必ず現れると考えたのか。それともただの当てずっぽうか。

俺とフミ子が身をかくすより早く、おばちゃんは俺たちを見つけていた。

「ねえ、キミ」

おっちゃんとおばちゃんがかげよつてきて、あつという間に取り③囲まれた。

「さっきのお弁当のことで、ちよつと聞きたいことがあるんや。あれを君にたのんだ女の人って、若くて髪かみの長い人だつて言うてたわね？ もしかして、この人やない？」
そう言いながらおばちゃんは、ハンドバックから一枚の写真を取り出した。きつと繁田喜代美の写真だろう。けれど、俺はそれを見たくなかった。絶対に見てはいけな
いと思った。

「喜代美……」

その時、近くで風が鳴るような声がした。

顔をあげると、あのやせ細った老人が

II

ふるえる手で、フミ子の肩をつかもうとしていた。やはり親子は、姿が変わっても通じる何かがあるのだろうか——老

人はひと目で、フミ子が自分の娘の転生した姿だと気づいたようだった。

「おまえ、喜代美やね？ 間違いない、喜代美なんやね……」

フミ子は大きい目に涙をいっばいたためて、その老人を見あげていた。④その目が一瞬、とまどったように俺を見た。

「さわらんといってくれっ！」

俺は

※

で、老人とフミ子の間に割りこんだ。

「この子は、そんな名前やないっ！ フミ子や。俺の妹や。おっちゃん（老人）らとは、何の関係もあらへん！」

③俺は力いっばいフミ子を抱きしめた。

兄貴というのは、きっと世界で一番損な役回りだ。どんな時でも、妹を守らなくてはならない。

老人は、とても悲しそうな目を俺に向けた。けれど、その指一本、フミ子にさわらせるわけにはいかなかった。

「ごめんな、おっちゃん(老人)。でも、この子には、**㉔**立派なお父ちゃんとお母ちゃんがおるんや。お父ちゃんはまだ死んでもうたけど、この子が生まれた時に、アホみたいにバンザイ、バンザイって言うたんや。お母ちゃんは俺とこの子のために、一生懸命働いてくれる。そのお父ちゃんお母ちゃんのために、おっちゃん(老人)に、この子をさわらすわけにはいかんや」

III 開いたままの老人の口のおくから、**㉕**おえつのような音がもれ出た。

「父さん、やめとき……その子、**㉖**困ってるがな」

やがてとなりにはいたおっちゃんが、老人の肩をたたいた。そして **IV** 俺を見て言った。

「その子、お前の妹か？ かわいいな」

「ほんまや。かわいい子や」

おばちゃんがその言葉に乗っかる。

「おばちゃんたちにもな、かわいい妹がおったんやで。エレベーターガールやったんや」

④「人はどこかまぶしそうに、フミ子を見ていた。」

「死んだお母さんにも、見せたかったわ」

そう言うと、おばちゃんは、ほんの少しだけ涙をこぼした。

『花まんま』 朱川湊人

問一 ㉔㉕㉖の漢字の読みをひらがなに直しなさい。

問二 **I** **IV** にあてはまる最も適切な言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ちらりと イ ぶるぶると ウ ぽかんと エ こくと

問三 **※** に入れるのにふさわしい四字熟語として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 絶体絶命 イ 無我夢中 ウ 一心不乱 エ 半信半疑

問四 ――①「事のてんまつ」とは「事の初めから終わりまでのくわしい事情」という意味です。ここでは「俺」が「フミ子」からあることをたのまれ、繁田家に行つて実行したことを示しています。では、フミ子からのまれたことや、そこで起こったこととは、どのようなことだと推測できますか。文章からは読み取る(どの)できないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 繁田家の人々からあやしまれたら、「若くて髪の毛の長い人からたのまれた」と答えるようにフミ子から言われた。

イ 老人に、フミ子の作った「花まんま」をとどけた。

ウ 「花まんま」をとどけられた老人が、余計なお世話を焼かないでくれと怒った。

エ 繁田家の人々に取り囲まれ、いろんな疑いをもたれ、あやしまれた。

問五 ――②「その目が一瞬、とまどつたように俺を見た」とありますが、なぜ、フミ子はとまどつているのですか。次の説明の空らんにはまるる言葉を1は指定された字数で文章中から書きぬき、2・3は自分で考えて答えなさい。

自分が喜代美の 1 (二字)

であることを認め、目の前の老人を 2 (二字)

として受け入れてしまうと、自分のことを一生懸命愛してくれている実の親や兄

を裏切ることになり、 3 (七字以内) と思うから。

問六 ――③「俺は力いっぱいフミ子を抱きしめた」とありますが、このときの「俺」の気持ちの説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 娘むすめの生まれ変わりだとかんちがいするあわれな老人の手から、フミ子をうばい返そうと思つている。

イ フミ子をしつこく連れ去ろうとする繁田家の人々から、大切な妹であるフミ子を守りぬこうと思つている。

ウ 喜代美として生きていきたいと望むフミ子に、喜代美として生きていくのは大変だと気づかせようと思つている。

エ 老人を悲しませることはなるが、父の言いつけを守り、自分の家族のためにフミ子を守りぬこうと思つている。

問七 ――④「二人はどこかまぶしそくに、フミ子を見ていた」とありますが、このときの「二人」の気持ちの説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 亡くなった妹の喜代美に生き写しのようなフミ子に、生前の喜代美の姿を見て驚おどろくとともに、とまどいをかくしきれない気持ち。

イ おさないながら、見ず知らずのあわれな父親を気づかい、心優しく接してくれるフミ子の人から心からありがたいと思つ気持ち。

ウ 娘を亡くした後、食事をとらないでいる父親に、転生した姿を見せてくれるという奇跡を起こしてくれたフミ子に感謝する気持ち。

エ おさないな二人が目の前で見せてくれた兄妹愛に心から感動し、喜代美を失った悲しみにとらわればかりではいけないと思つ気持ち。

問八 次にあげる会話は、この作品を読んだ後に、グループで作品の感想を話し合ったものです。A君からDさんの中で、文章からは読み取れない意図を述べている人を一人選び、記号で答えなさい。

A君…ぼくは、喜代美の父親である「老人」が自分を責めて、何も食事をとっていないというところに、親としての愛情と深い悲しみを強く感じました。

Bさん…私も、同感です。そして、そのかわいそうな父親がこれ以上、自分を責めないようにするために、フミ子の中に「喜代美」が現れたのだと思います。

C君…しかし、フミ子の兄である「俺」は、そんなフミ子の中の喜代美の気持ちが分かりつつ、それでも、自分の父や母のために、フミ子を繁田家の人々から守ろうとしたところが感動的でした。

Dさん…私は、両方の家族の愛情の板ばさみにあった「フミ子」がかわいそうではありません。小学二年生という年齢を^{わかれい}考えても、なぜ自分がこんなことをしなければいけないのか、わけがわからないまま周りを大人たちに取り囲まれて、とてもこわい思いをしていたと思います。

